SLとくらし

大井川鐵道

平成のSL

今ではなつかしくなったSL。
でもここ大井川鐵道ではほとんど毎日SLの汽笛が聞こえてきます。

SLに乗ると…

SLの中に入ると板張の床、木枠の座席、天井の白熱灯、古そうな扇風機…レトロな車内に一瞬タイムスリップした気分になります。
大井川鐵道では、文化遺産の考えで客車も当時の姿を残しています。

こんにちは！ぼくは「SLくん」よろしくね！

SLは生きている

木製の窓枠から飛びこんでくる、大自然の景色や新鮮な空気。
時間もゆっくり流れます。そして時おり窓から入りこむSLのけむりやすす、熱い空気、客車に伝わる音やしんどう…。
体中でSLの息づかいを感じることができます。

みんな1つ

SLに乗ると乗客と沿線でSLを見ているカメラマンや観光客、線路わきに住んでいる地元の人が笑顔で手を振り合います。
SLを通してみんなが一つにつながっている感じがぼくは大好きです！

SL新聞

大井川沿線の駅黄色はSL停車駅

金谷 / 千頭 / 閑蔵 / 青部 / 長島 / 川根温泉笹間渡 / 地名 / 抜里 / 田野口 / 田代 / 奥泉 / 尾川 / 神尾 / 五和 / 日切 / 代官町 / 新金谷

SLの運行を支える人①

SLを走らせるためには、免許が必要です。入社して車掌などの経験をしながら先輩から後輩へ技術が受け継がれて免許を取得していきます。
SLの機関士さん11人

SLの運行を支える人②

今は製造していないSL。一つ一つの部品がとても大切な物。調達できない場合は作る事もあるそうです。
SLの点検は毎年1/4ずつ。4年ですべて点検ができるようにしているそうです。
整備士さんの数15人（うちSL専門3人）

すごい数の工具…

SLの運行を支える人③

車内ではSLの旅をより一そう楽しくするためハーモニカおじさんおばさんが観光案内をしたりハーモニカ演奏で楽しませてくれます。千頭駅から乗るお客さんが気持ちよくすごせるように、千頭駅に着くと、車内を清掃していました。

SLの運行を支える人④

大井川鐵道には無人駅もあります。そんな無人駅の清掃や花だんの手入れなどは地元の方がやってくれているそうです。
また沿線の観光地にはSLの通過時刻がわかるようにしてありました。

SLの運行を支える人⑤

SLに乗ると、あざやかな緑のお茶畑が目に飛びこんできます。一面に広がるお茶畑をみて、お茶に興味を持ってくれたら…とかげながら応援していました。

大井川鐵道はSLの運行を支えてくれる町のために、人は、うるおいと活気を届けてくれる。大井川鐵道のためにお互いが支えあっています。いろいろな人達に支えられて走っているSL。この町ではSLはくらしの一部になっています。

くらし

観光

沿線上では
- 塩郷のつり橋
- ふれあいの泉
- 駿河徳山のしだれ桜
- 家山の桜トンネル
- プラザロコ
- 抜里の茶畑

など数々の観光名所があります。行きはSL、帰りは千頭駅に移動してもらったマイカーで観光ができるプランもありました。

もちろん大井川鐵道では普通列車も走っています。
SLに乗らなくても汽笛の音を時計がわりにしている人もいました。
心がゆたかになり自然とふれあえる鉄道、それが大井川鐵道でした。

自然災害

大井川鐵道沿線上には3万人の人々がくらしています。台風などの自然災害で道路が寸断されて孤立してしまうこともあります。そんな時は大井川鐵道が連絡経路になります。また1メートル以上の地震では鉄道をストップし、安全を確保します。

バリアフリー

車いすの人でも楽しめるようにこな板意も用ありました。

SLのけむり

大井川鐵道では環境に配慮し、けむりをあまり出さない無煙炭を使っています。

今走っているSL

どんどん見つけよう！

C11 227
大井川鐵道SLの中で初めて復旧・運転したSL。夏休み限定で「SLくん」に!!

C5644
タイメン鉄道というタイ・ビルマ（現ミャンマー）に第二次世界大戦中にひいた路線を走ったSL。C56が2台帰ってきてそのうちの1台。

C10 8
「SLリアス」として岩手県を走っていたSL。C10は世界の中でもここだけ。SLが縁で東北の支援をしています。

C11 190
元お召列車牽引機。今は、金色がまじったカラーリングが見れます。大井川鐵道の中で稼ぎ頭SL。

静態保存SL
C12 208・C11 312
C12 164・49616・いずもし・1275

ぼくはSLの写真を撮るのが大好きです。走っている姿はちょっと誇らしげ。写真撮影の時は老若男女問わずライバル。撮影が終わるとみんないい表情で和やかな空気に包まれます。

SLにかかわっていた人は暑い真夏でもクーラーがない中で汗だくになりながら仕事をしていました。すごく大変なのにみんな笑顔でした。「SLは甘えん坊。目をはなすとすぐにトラブルが起きる」と優しい表情で言っていた整備士さん。SLはみんなから愛されています。

この「SL新聞」は、いろいろな方の協力で出来ました。
ありがとうございました。　2012年　発行者・山村 健斗